

「目を覚まして祈り続ける」

2019年03月02日

エフェソの信徒への手紙6章18節～24節 どのような時にも、“霊”に助けられて祈り、願い求め、すべての聖なる者たちのために、絶えず目を覚まして根気よく祈り続けなさい。また、わたしが適切な言葉を用いて話し、福音の神秘を大胆に示すことができるように、わたしのためにも祈ってください。わたしはこの福音の使者として鎖につながれていますが、それでも、語るべきことは大胆に話せるように、祈ってください。

わたしがどういう様子でいるか、また、何をしているか、あなたがたにも知ってもらうために、ティキコがすべて話すことでしょう。彼は主に結ばれた、愛する兄弟であり、忠実に仕える者です。彼をそちらに送るのは、あなたがたがわたしたちの様子を知り、彼から心に励ましを得るためなのです。平和と、信仰を伴う愛が、父である神と主イエス・キリストから、兄弟たちにあるように。恵みが、変わらぬ愛をもってわたしたちの主イエス・キリストを愛する、すべての人と共にあるように。

「著者」は、「どのような時にも、“霊”に助けられて祈り、願い求め、すべての聖なる者たちのために、絶えず目を覚まして根気よく祈り続けなさい」と、“霊”に助けられて、辛抱強く祈り続けよと勧めている。祈りが、イエス・キリストにおいて現わされた神の救いの恵みを受け止めさせ、私たちが進むべき道を示してくれるからである。また「著者」は、「わたしが適切な言葉を用いて話し、福音の神秘を大胆に示すことができるように、わたしのためにも祈ってください。わたしはこの福音の使者として鎖につながれていますが、それでも、語るべきことは大胆に話せるように、祈ってください」とエフェソ教会の信徒たちに「著者」のためにも祈るようにと願っている。「著者」は、近隣の諸教会の指導者でもある。彼は現在、福音の使者として投獄されているが、語るべき時には、適切な言葉で、福音の真理を大胆に語るできるように、祈ってほしいと願っている。信仰の先輩たちは、どんな苦難にありながらも、キリストの福音宣教のために、命を賭して戦ったのである。現在の私たちは、彼らの苦難を通して、福音を受け継いでいる。それは、私たちも苦難を乗り越え、福音を宣教せよとの諭しである。

「わたしがどういう様子でいるか、また、何をしているか、あなたがたにも知ってもらうために、ティキコがすべて話すことでしょう。彼は主に結ばれた、愛する兄弟であり、忠実に仕える者です。彼をそちらに送るのは、あなたがたがわたしたちの様子を知り、彼から心に励ましを得るためなのです。」「著者」は、主イエスに忠実に仕え、愛する兄弟ティキコをそちらに送ると書いている。彼が、私がどんな様子で、何をしているかを話してくれる、彼の報告を聞けば、あなたがたは心に励ましを得ることになるでしょうと書いている。ティキコはアジア州出身で、パウロがシリア州に向かって船出しようとしたが、パウロに対するユダヤ人の陰謀があることを聞いて、遠回りしてマケドニア州を通って帰ることにした時、同行したパウロを師と仰ぐ弟子である。パウロの周りには多くの協力者、弟子たちがいた。パウロの福音宣教の真実さが、人々の心を惹きつけ続けたのである。私も良い師に恵まれ、多くを教えていただいたことを幸いであつたと、心から感謝している。

「著者」は最後に、「平和と、信仰を伴う愛が、父である神と主イエス・キリストから、兄弟たちにあるように。恵みが、変わらぬ愛をもってわたしたちの主イエス・キリストを愛する、すべての人と共にあるように」と祝福を祈って、手紙を書き終えている。